第2学年 音楽科学習指導案

音楽科研究室

題材名 いろいろな音に気をつけてきこう

教材名 「『山のポルカ』による森の音がくかい」 橋本 祥路 作曲

指導に当たっての基本的な考え方

こんな子どもを

- 音楽を聴くのが大変好きで、どんな感じの曲なのか、興味・関心をもって聴く姿が見られる。
- 音楽を聴くときに、様子を思いうかべながら聴いたり、音楽に合わせて体を動かしたりしながら聴くことができる子どもが多いが、主な旋律を口ずさみながら形式をとらえて聴く経験は不十分である。
- 既習曲「トルコ行進曲」や「メヌエット」において、強弱に気を付けて聴くことはできるよう になっているが、いろいろな楽器の音色の違いを感じ取って聴く経験は少ない。

こんな教材で

教材曲「『山のポルカ』による森の音が くかい」は、森の動物たちが集まり、み んなで楽しく音楽会をしている様子を表 した曲である。

華やかなファンファーレで始まる(序奏)、『山のポルカ』の旋律で演奏される(A)、オーケストラの美しい響きとソロの部分とのかけ合いがある(B)、打楽器の軽快なリズムとオーケストラの迫力のある音でしめくくられる(コーダ)で構成されている。

また、いろいろな楽器によって断片的 に独奏部がつくられており、それぞれの 楽器の音色をとらえるのに適した教材と 言える。

こんな支援で

- 楽器の音色を動物に置き換えることで、 ファンタジーの世界にひたらせながら、 意欲的に音色の違いを感じ取って聴くこ とができるようにする。
- 〇 既習曲「山のポルカ」の旋律を口ずさ みながら聴かせることで、(序奏) -(A)-(B) - (コーダ)の形式を捉えさせ、プログラム1番から4番として提示する。
- プログラム1番から部分的に段階をおって聴かせることで、音色の違いを感じ取りやすくする。
- 動物の絵カードを操作させながら聴かせることで、意欲的に楽器の音色の違い を感じ取ることができるようにする。



こんな子どもに

- 動物たちが集まって楽しく音楽会をしている様子を思いうかべながら楽しく音楽を聴こう としている。
- 主な旋律を口ずさみながら、曲の気分を感じとって聴くことができる。
- いろいろな楽器の音色の違いを感じ取って聴くことができる。

段階	配時	主な内容
導入	1	○ 主な旋律を口ずさみ、曲の気分を感じとって聴くこと
展開	1	○ 動物たちがどんな順番で演奏しているのかを考えながら、音色の違いを感
終末		じ取って聴くこと

◇ 本時の目標

○ いろいろな楽器の音色の違いを感じ取って聴くことができる。

◇ 準備

・編集MD、楽器を持っている動物の切り抜き絵、プログラム、板書カード

◇ 展開

